

沈下橋建設と暮らしの変化

ミャンマー連邦共和国 マグウェ地域 アウンラン地区

トゥリヤ橋（橋長 66 m／幅員 4 m）

2017 年度の事業で建てられたトゥリヤ橋は、アウンランの町から東に車で約 1 時間、シンチャン村とユワマトン村の境に架かっている。アウンラン町側にはシンチャン村をはじめ 20 村あり、橋を渡るとそこはユワマトン村で他に 6 村がトゥリヤ橋を利用し、約 9500 人に裨益する。この辺ではゴマ、豆、玉ねぎ、トウモロコシなどを栽培している。

ユワマトン村の僧院で、橋建設委員会の会長を務めユワマトン村の村長である U Zaw Min Htun をはじめ橋建設委員会メンバーや村人から話を聞かせてもらった。

これまで、雨季になると水の流が激しいためボートを出して渡ることができないほどであった。水量の少ない時は牛車で渡っていたそうだ。気をつけていてもこれまで牛車や人が流され、命を失うことがあったと悲しい歴史を語ってくれた。また、へびに噛まれた人が命を落とすこともたびたびあった。河川の水量が増して渡れず、アウンランの町の病院に搬送したかったが叶わなかったからだ。昨年もへびに噛まれた人が 4 人もいたが、沈下橋のおかげで町の病院まで時間をかけることなく搬送し、事なきを得たそうだ。また緊急を要する妊婦を町の病院に搬送する場合も同じような状況であった。沈下橋完成後の 2 年間、水位が増し

執筆・撮影者紹介

兵頭千夏さん

ヤンゴンを拠点に、ミャンマーの人々の生活・伝統文化・信仰・女性をメインテーマに撮影している写真家。2003 年よりヤンゴン文化大学に 2 年間留学し、ミャンマー語の通訳者、翻訳者としても幅広く活躍しています。

今回、JIP の沈下橋建設事業がミャンマーの人々の暮らしをどのように変えたのか、現地の撮影や住民へのインタビューを通して、レポートをしていただきました。



アウンランの町側から見たトゥリヤ橋

ても数時間で地覆が見えるようになり、毎日、橋を利用できたそうだ。そんなことから、保健面での不安がなくなったという。

経済活動においても変化がもたらされた。雨季で水位が上がって河川を渡れず、収穫したトウモロコシを売りに行けない日もあった。それが今では 24 時間いつでも河川を渡ることができ、ありがたい、価格の良い時に売ることが可能になったと感謝された。水位がそれほど高くない時は、牛車に荷物を載せて河川を渡し、車のある場所まできたらまた荷物を移し替えていた。それが今では手間が省け、時間も節約されるようになった。

トゥリヤ橋はバイクと車両の往来が多い。朝、車 15-20 台が荷物を積んで橋を渡る。人々を乗せる乗り合いトラックも多く、朝の 5 時からアウンランの市場に向かう。沈下橋が完成したことで、2019 年 12 月に村間を繋ぐ土の道が整備され、往来が活発になっているのだそうだ。さらに今後、車道の整備もされることが決まった。沈下橋建設によって波及効果を生み、村の発展に寄与する大きなインパクトを与えたといえよう。しかしながら、沈下橋ができ道が良くなったことで交通量が増え、バイク事故の心配をするようになっているという声も聞かれた。

沈下橋の建設は約 5 ヶ月だった。ユワマトン村の住民 40 人が 1 日 5,000 チャット¹で作業に参加していたそうだ。従事していた男性に聞くと、太い鉄筋を使用し、ゴミが混じらないように気をつけ、きちんとした仕事ぶりだったと答えた。強い橋が完成したと感じたそうだ。ちなみに残業をすると食事もついて 9,000 チャットもらえたらしい。

橋建設委員会から橋維持委員会に移行したが、まだこれといった維持活動を体系立てておこなっていなかった。今は丈夫に見えても、牛車の車輪の鉄により、橋面が削れていくのは確実だ。なぜなら玉ねぎ畑が広がっているため牛車道を造ることができず、牛車も



牛車道がないため、橋を渡る牛車



幼い子どもの手を引いて親子が渡って行った



地覆の外側に設置されたロープ



橋面まで草が覆われていた

沈下橋を利用しているからだ。牛車道を通るのは玉ねぎ栽培の終わる雨季の5-9月だけとなる。今後のことは話し合うつもりだと述べていた。

大雨が降ると濁流により、橋に流木などが堆積する。それらは橋に近い5村から男性たちが集まり清掃活動をおこなっているそうだ。ロープで引っ張り上げて、薪が欲しい人は持ち帰る。しかし、多くはまた河川に流すのだそうだ。橋に引っかかった流木などそのままにしていると、河道が変わる恐れがあるため、なるべく早く水が流れるよう心がけている。河川に堤防がないので浸食するのも心配だという。

そういえば、橋桁に流木がへばりついていたので聞いてみると、引っ付いてしまって人力では剥がれないのだそうだ。また橋と道路の境あたりに草が生い茂り、一部橋面まで覆っていたので、草むしりの必要を感じた。

橋に対する安全指導はどうなっているのか尋ねると、橋建設委員会の女性メンバーでもあった Daw Nyo (60) が説明してくれた。彼女には幼稚園に通う孫がいるが常に大人と一緒に外出しているそうだ。もともと村の子どもが1人で外出して橋を渡ることはほとんどないらしい。7-8年生、13-14歳くらいにならないと外出しない。出かける場合は友人と2人以上だそうだ。分別もついていて落下した人はいないとのこと。他の村人からは、バイクを乗るようになった子どもにはゆっくり運転するよう言い聞かせているという声も聞かれた。

シンチャン村の小学校(ポストプライマリースクール) Daw Khin Mar Cho 校長に話をうかがった。校長は橋を利用し学校に通っている。沈下橋が出来る前、通常はバイクだが、雨季の間は歩いて通っていたそうだ。雨の日は誰かが来るのを待ち、2-3人で手を繋いで河川を渡っていたという。1人で渡るのが怖いほどの水流なのだ。首まで浸かって頭だけ出し、鞆を頭上に持ち上げ、河川を歩ききったこともある。また牛車の上に乗って渡ったこともあるという。雨季は普段着で



橋桁に残ったままの流木



銘版



沈下橋完成後、整備された土の道



毎日、橋を利用する玉ねぎ農家

学校へ行き、学校に着いてから持参した制服に着替えるのが習慣だったそう。劣悪な環境に驚きを隠せない。水位が高い時は学校を休むしかなく、年間、20日ほど学校に行けないと電話をかけたものだと苦笑いした。逆に自宅に戻れず、学校近くで2日間泊まることもあったそうだ。沈下橋が完成してからは休むことなく、毎日バイクで通っていると笑った。

校長は小学2年生の姪と一緒に学校に通っているのだが、姪が沈下橋から一度落ちてしまったというではないか。幸いにも大事にはいかなかったが、その時に危険を認識したそうだ。その後、沈下橋を渡る時は慌てずゆっくりと中央を歩くよう指導しているそうだ。端を歩いていて、めまいなどで落下する可能性もあると思うから。今後はもっと児童たちに安全に関する話をしたいと思うと言っていた。

集会をさせていただいた僧院の U Thumani 僧正にご挨拶し、沈下橋ができたことでどのような変化があったか質問してみた。僧正は「河川を渡っていた人みんなが助かり、苦しみがなくなりましたよ。素晴らしい功德をおこなってくれました」と感謝の言葉を述べられた。実は、以前から橋の必要性を村人たちと話しあってきたそうだ。しかし、金銭的な問題で実現できずにいた。そこで、橋が架かるという知らせを聞いた時、考えてもみなかったのでも嬉しかったそうだ。僧正も弔事に関わる席に呼ばれると、雨季であっても川の向こうに行かなければならない。筏で渡ったこともあれば、頭だけ出し、鞆を頭上に載せて、河川を渡ったこともあるという。しかし、問題は解決したのだと微笑み、建設してくれた人たち、支援してくれた人たちに感謝しているとおっしゃった。

これからは子どもたちが橋から落ちないように気をつけなければいけない。子どもたちは保護者と一緒に渡り、大人も1人で橋を渡らないようにすれば危険な目に遭わないと思う。バイクも増えてきたので事故にも気をつける必要があるなど、今後の問題点を指摘した。

橋向こうの村が非協力的だと小耳に挟んだので、率直に僧正に聞いてみた。僧正いわく、喧嘩になった訳ではないので安心するように、説法会の時などで、具体的なことは言わず、「利他的である方が幸せだ」と説いているとおっしゃった。



シンチャン村の小学校
(ポストプライマリースクール)
Daw Khin Mar Cho 校長



U Thumani 僧正



僧院に集まってくれたユワマトン村の人たち

村人たちの生活に信仰は切っても切れない重要な存在だ。良き理解者の僧正がいる限り、大きな問題にはならないだろうと安堵した。

所感

沈下橋建設事業の妥当性は高く、現地ニーズに沿うものであった。JIP が掲げる上位目標も達成されていた。沈下橋の建築は、一部の住民が従事したこともあり、効率よくおこなわれ信頼を得ていた。近隣住民の生活環境を大きく向上させ、負の影響はなく、経済的・社会的インパクトが見られた。

沈下橋建設を通し、近隣の村々と連携しつつ事業を完遂させることには成功したが、一部の村が非協力的であったという声が聞かれた。しかし、精神的支柱の僧正が理解者となって、諍いに発展することなく平和裏に生活が全うされていた。

持続、自立発展のため、橋建設委員会は橋維持委員会に移行され、組織されていたが、まだこれといった活動はしていなかった。そればかりか、牛車道が作れないため、通行禁止できずにいる状態であった。牛車の鉄の車輪により、橋面を痛めることは確実である。今から寄付を募っておくなど、具体的な活動を始めてもらいたい。

橋建設委員会に女性がひとり参加しており、橋維持委員会にも参加しているが圧倒的に男性が占めており、ジェンダーの配慮はまだ低い。橋から落下した児童がいる事実を踏まえ、学校だけでなく近隣住民にとって大きな問題と捉え、安全指導を強化する必要があると感じた。

どの地域でも当てはまることだが、浸食を防ぎ、河道が変化せぬようフォローしてもらいたい。

同事業は、地域住民のインフラを改善し、さらに土の道路が整備されるなど波及効果を生み、社会経済活動に貢献する意義ある事業であったと思われる。

¹ ミャンマーの通貨単位。5,000 チャット≒350～400 円。